



様式第4号（第7条関係）

令和6年7月17日

東かがわ市議会議長  
渡 邊 堅 次 様

東かがわ市議会議員  
会派 個人・その他)  
氏名 大 田 稔 子

### 行政視察等報告書

1	日 時	令和6年7月1日～7月2日	
2	参加者	大田稔子 工藤正和 橋本守 堤弘行 田中貞男	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		リノベーションまちづくり推進事業	千葉県館山市
		地場産業「行田足袋」への支援等について	埼玉県行田市
4	研修・調査内容	リノベーションまちづくり推進事業は、「取り組んだ背景等についての調査」 地場産業「行田足袋」への支援等については、「近年の業界の推移と足袋製造の現地調査」	
5	研修成果	別 紙  (感想・今後の取り組み等)	
6	費 用	金 88,704 円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

別紙

## 研修報告書

同友志会 大田稔子

令和6年7月1日

### 「リノベーションまちづくり推進事業」について

千葉県館山市

#### 【研修・調査内容】

##### 館山市の現状と課題

- ・過度な人口減少
- ・雇用における人材不足
- ・空き店舗・空き地の増加
- ・若者の市外流出

##### リノベーションまちづくりとは

まちなかの空き店舗や空き家などの遊休不動産について、起業・創業意欲のある人材が新しい使い方により「まち」を再生する事業であり、地域課題を解決することを見据えて民間主導でプロジェクトを起こし、行政がこれを支援する形で事業を促進する民間主導の官民連携事業。

##### 若者が戻ってきたくなるまちづくりの取組

- ① 高校生によるまちづくり活動事業(安房六軒高校)  
若者の U ターンに繋げるとともに将来に渡って住み続けたくなるまちづくりを行うことを目的
- ② 顔の見える経済循環 (あんもかんもマルシェほか)  
駅駐輪場跡地の利活用を促進し、地域住民と事業者がつながるマルシェを毎月開催

#### 【研修成果】

本市もかつての館山市と同様、中心市街地の商店街が衰退し、空き店舗や空き家等の増加によるまちの空洞化、働く場所の減少等が課題である。中心市街地であった三本松地区は



### これからの予定

- ・足袋関連事業者と行政が一体となって、行田足袋ブランドの構築に向けた認知度向上のための国内外へのプロモーション等を行うことにより、行田足袋のブランド化及び足袋産業の振興を図る。
- ・日本遺産「足袋蔵のまち」を「行田足袋」で歩いて巡るプレミアムガイドツアー造成事業～花と光のアートによる高付加価値化～

### **【研修成果】**

「足袋とくらしの博物館」は、休館されていて見学できず残念であった。

(株)イサミコーポレーションの工場を見学。タイムスリップした感覚になった。昔ながらの人の手で、何回も工程を分けた作業であった。全て手作業で一足袋一足袋丁寧に縫製されていた。従業員の方の高齢化・後継者不足が課題とのことであった。本市の手袋産業と類似していて、物づくりの難しさも感じたが、素晴らしい技術を継承していく必要性も感じた。時代の流れ、環境の変化等で伝統的な産業を、次世代に繋げていく難しさを実感した。足袋の価格が3000円前後とのこと。一日に仕上がる商品の数と、従業員の人数等、設備維持等を考慮すると大変な産業と感じた。

(株)イサミコーポレーションは、縫製の技術を活かし学校制服、体育スポーツ衣料、企業ユニフォームも手掛けている。インバウンド向けの高価格商品開発の必要性も感じた。足袋を履いて行田市の観光に繋げていく企画等、本市も参考にしたら良いのではと感じた。

一つの工場の見学であったが、本市の手袋産業についての何らかの展望に繋がるのかと期待していたが、伝統的な事業の継承は、それぞれ課題があり課題に向き合いながら前に進めていっている物づくり産業の難しさを感じた研修であった。